

Museum in Metro

大洲大伴

来館の

螺旋
Unfinished Spiral
Daisaku Oozu

会場＝京成電鉄
旧博物館動物園駅（台東区上野公園1-12）

螺旋

2019 8.10 (Sat)

13:00-18:00 入場無料

●ただし入場には当日分の整理券が必要
※詳しくは裏面をご覧ください

— 18 (Sun)

主催＝art-Link上野会中（実行委員会）
助成＝台東区芸術文化支援制度
協力＝京成電鉄株式会社

上野の杜芸術フォーラム
©Daisaku Oozu

↑ 台東区芸術文化支援制度 art-Link

来館の

Museum in Metro

大洲大伴

大洲大作家の螺旋

螺旋

●入場無料、ただし入場には当日分の整理券が必要です ●整理券の配布は、会期中毎12時30分から会場前にて行います ●会場はバリアフリーに対応しておりません。何卒ご了承ください ●会場は駅舎ですが、駅としてはご利用になれません ●鉄道業務に関わる緊急の際は入場いただけない場合があります

作家プロフィール



大洲大作
(おおす・だいさく)

写真を軸に、営為を風景にみる。近年は、列車の「車窓」に材を取ったインスタレーションを発表。最近の展覧会にめぐねと旅する美術展(青森県立美術館/島根県立石見美術館/静岡県立美術館、2018-19)、『あいちトリエンナーレ』(アートラボあいち「窓から」)、(アートラボあいち、2018)、『Another Tokyo』(スパイラル、2018)、『アブラブショー2』(青森県立美術館、2017)、『写真+列車』(映画『カマターソコ』、2017)、『さいたまトリエンナーレ2016』などがある。



旧博物館動物園駅

2019 8.10 (Sat)
—18 (Sun)

〈art-Link 上野・谷中〉は京成電鉄の協力のもと、旧博物館動物園駅において、大洲大作氏によるインスタレーションの展示を行います。

旧博物館動物園駅は、京成電鉄が上野の地下を走る、日暮里と京成上野駅の間に位置します。1933(昭和8)年開業の折には、その場所が皇室の御料地であったため、設計が御前会議によって決定されたという経緯が知られています。独特のデザインでその後も長く親しまれましたが、短いホームの改修が難しく、2004(平成16)年に廃止されました。一度は営業を休止した同駅ですが、2018(平成30)年に転機が訪れます。その歴史的意義から、駅舎として初めての「東京都選定歴史的建造物」となったのです。再活用のチャンスが生じた駅を舞台に、私たちはこの地と建物の歴史的経緯を見直したいと考えました。今回は鉄道などの「車窓」に材を取った作品で知られる、大洲大作氏のインスタレーションによって、これまでには広く知られることのなかった、上野地下線のある記憶をうつし出すことを試みます。空間に刻まれた螺旋の残像によって、私たちはこれまで知ることのなかった建築の姿を体験することになるでしょう。



©Shusaku Ozari

会期中イベント
※入場無料、ともに定員あり(先着30名)
※メールでの事前予約が必要

●トークイベント
8月12日(月・祝) 18:30 - 会場内にて開催
小沢剛(アーティスト) × 大洲大作



小沢剛(おざわ・つよし) 1965年東京生まれ。2004年に個展「同時に答えるYesとNo」(森美術館)、2009年に個展「透明ランナーは走りつづける」(広島市現代美術館)、2018年に個展「不完全パレルな美術史」(千葉市美術館)を開催。東京藝術大学先端芸術表現科教授。

●ダンスパフォーマンス
8月11日(日) 18:30 - 会場内にて開催
鈴木一琥(舞踏家) ※アフタートークあり



鈴木一琥(すずき・いっこ) 1972年墨田区生まれ。ダンサーとして舞踊の根源を探索し続けている。これまで伝統・現代を問わずアジア・ヨーロッパ・オセアニア各地で公演やワークショップを行う。作品は多岐にわたるが、社会問題や哲学、歴史、人間性に言及するものが多い。また東京大空襲を題材にした代表作の一つに「3・1010万人のことば」がある。

お問い合わせ

〈art-Link 上野・谷中〉事務局
Mail: artlink97@yahoo.co.jp
電話: 080-6616-1950 (受付時間12:00-18:00)



会場 = 京成電鉄旧博物館動物園駅
(12-1 園ヶ通上野区東上野)

大洲大作家の螺旋